

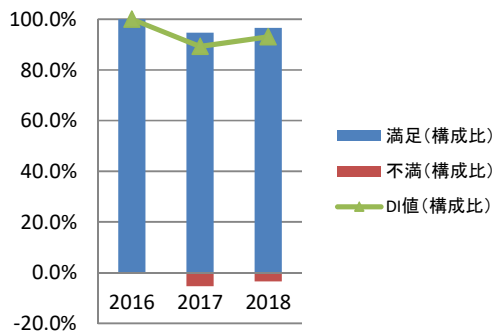
# 京都から発信する政策研究交流大会

## <事業概要>

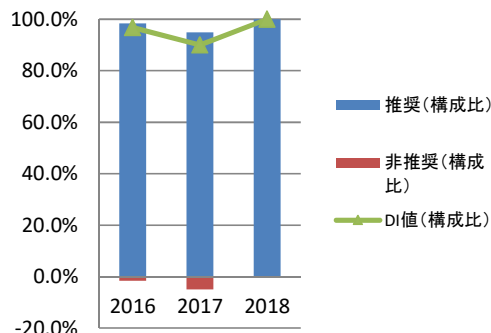
京都から発信する政策研究交流大会は、都市の抱える問題・課題を見つけ、それを解決するための研究を行う学生が日頃の研究成果を発表し、大学やゼミの枠を超えた交流を深めるとともに、地域社会に対する政策提案・情報発信の場となることを目的として、2005年度より開催している。

京都を拠点に観光、産業、福祉、まちづくり、環境問題など幅広いテーマで、研究発表の場を設け、政策系の学部を有する大学・大学院のみならず、多様な大学の学生・院生の更なる参加を促す。また、これまでの大会成果を踏まえ、研究発表を通して更なる研究の深化と広範な交流の機会とすることを旨とする。

参加者満足度 DI値



他者推奨度 DI値



## 参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	80	88	84
不満(名)	0	5	3
満足(構成比)	100.0%	94.6%	96.6%
不満(構成比)	0.0%	-5.4%	-3.4%
DI値(構成比)	100.0%	89.2%	93.1%
参加者数(名)	423	352	392

## 他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	61	76	67
非推奨(名)	1	4	0
推奨(構成比)	98.4%	95.0%	100.0%
非推奨(構成比)	-1.6%	-5.0%	0.0%
DI値(構成比)	96.8%	90.0%	100.0%
参加者数(名)	423	352	392

## <参加者の声>

- 他大学の発表の仕方やパワーポイントの作り方、また審査員の方からのアドバイスなども参考になった
- さまざまな政策立案を見ることができた
- 大学の強みや良いところを活かし、地域的課題の解決のため未来に向けての取り組みを知ることができた
- 大学を越えて各々研究発表をする機会があることは非常に大切だと思った
- 同じ分野の人たちの発表がきけて、改善点などが見つかった
- 普段交流のない大学間での意見交換ができて良かった
- 自分が知らないことがたくさん論文を通して知れた これを機に興味もさらに湧いた
- 質問をもらうことで新たな見解を得ることができた

## <参加者の声を受けて改善を図った点>

- 大会を広く広報して欲しい、一般来場者が少ないといった意見から、財団のインターンシップ受け入れ先企業や、京都学生祭典の協賛企業などにも来場案内を送付した。
- パネル発表の会場が狭く、発表者のスペースが十分ではなかったため、1会場から2会場に増加した。
- 発表スケジュールの休憩時間を短縮し、最大70組まで発表者を出場できるようにした。
- 大会当日まで発表内容の修正を可能にするため、事務局へのパワーポイントデータの事前提出を廃止した。
- 当日得点集計を電子化し、例年開始時間が遅れていた表彰式を定刻通りに開催することができた。

## ※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>